

第 3 回社会教育計画策定ワーキンググループ会議記録

1 日時 令和 4 年 7 月 2 6 日（火）午後 1 時 3 0 分から午後 4 時まで

2 会場 調布市教育会館 3 階 3 0 1 研修室

3 出席者 9 人

篠崎議長，宮下副議長，荒井委員，進藤委員，西牧委員，田村委員，
福田委員，新田委員，矢幡委員

4 事務局 社会教育課長，社会教育課職員 4 人

関係課職員 東部公民館長，北部公民館長，図書館副館長，
武者小路実篤記念館事務局長

5 議題及び意見（委員意見は・に記載）

(1) 調布市社会教育計画（平成 2 5 年度～平成 3 4 年度）取組実績

(2) 調布市社会教育計画素案の案

・アンケートでは，団体に参加していない人の興味が障害に寄せられている。障害とは何かを教えるのではなく，一緒に活動しながら障害理解を深めていくことが大切なのではないか。

・アンケートの団体の回答も個人の回答でも人権，環境，男女共同参画，障害の問題もこれから踏み込むべき課題と見て取れる。

・団体活動における参加者の高齢化，固定化が課題とアンケートで明らかになっているため，対応が必要。

・図書館，公民館は利用者を広げたいと考える一方で，そこを利用した方が幸福になれるのに利用していない人達がいる。この隔たりをどう埋めるか。団体の活動や行政の施策を知ってもらうことは課題である。

・バーチャルとリアルをうまくつなげていくことが社会教育施設共通の課題

6 資料

資料 1 アンケート結果速報値

資料 2 調布市社会教育計画（平成 2 5 年度～平成 3 4 年度）取組実績

資料 3 調布市社会教育計画素案の案（資料 3）

第4回社会教育計画策定ワーキンググループ会議記録

1 日時 令和4年8月16日（火）午後1時30分から午後3時30分まで

2 会場 調布市教育会館3階301研修室

3 出席者 8人

篠崎議長，宮下副議長，荒井委員，進藤委員，田村委員，新田委員，毛利委員

4 事務局 社会教育課職員2人

関係課職員 北部公民館長，武者小路実篤記念館事務局長

5 議題及び意見（委員意見は・に記載）

(1) 調布市社会教育計画素案の案

・二十歳のつどいは成人式が始まった頃の開催の必要性が現在ではなくなっており，不要ではないか。一方で，参加率を考えると必要とされている事業と言える。また，内容を実行委員会が決めたりして決して意味がない事業とは思わない。

・障害のあるなしに関わらず，小学校の時代に図書館に触れる機会を作るよう連携して取り組んでほしい。図書館の利用の選択肢が多様であることを義務教育の子どもに伝えてほしい。

・多少日本語がわからない人も学べるような公民館活動が必要なのでは。広報などについてもやさしい日本語を一部使う，外国語対応するなど。

・調布っ子“夢”発表会について，反映したことをフィードバックされるようなものにして欲しい。在り方を含めて検討するというような表現にしたらどうか。

・子育てが終わった世代に向けての地域活動に向けての地域への参画への機会づくりを醸成するというような取り組みが考えられないか。

・多様性，例えば10年前は男女だったが，現在はLGBTQなどの問題に目配りしていることを表現する必要はないか。

・ICTを活用した内容が公民館のWi-Fiの話しか書かれておらず，前面に出てきていないところが残念である。

6 資料

資料1 調布市社会教育計画素案の案

第5回社会教育計画策定ワーキンググループ会議記録

1 日時 令和4年9月22日（木）午前9時30分から午後11時30分まで

2 会場 調布市教育会館3階301研修室

3 出席者 9人

篠崎議長，宮下副議長，荒井委員，進藤委員，田村委員，西牧委員，
新田委員，毛利委員，矢幡委員

4 事務局 社会教育課長，社会教育課職員4人

5 議題及び意見（委員意見は・に記載）

(1) 調布市の社会教育が目指す将来像

【委員案】

案1

将来像：「学びで心満たされ生まれた笑顔が 夢と希望にあふれた彩りある社会を築く」

説明文書：すべての市民がいきいきと学ぶことでまちづくりの主役となれるように，また学びを通じた人との繋がりが，地域の輪へと広がるようなまちを目指し，社会教育の環境を整備していきます。繋がりが広がる笑顔の輪が，ともに地域の課題を考えより良いまちづくりへと導くための力となるような社会教育を目標に，市民と行政が将来像を共有し，ともに実現に向けて取り組んでいきます。

案2

将来像：「学びが広がり，人がつながり，みんなの願いでつくる街」

説明：「学びが広がり」は，これまで社会教育の活動に参加してこなかった人たちにも参加してもらおうことを目指すということ。「人がつながり」は，学びを通してコミュニティー作りをするということ。「みんなの願いが届く」とは，まちづくりの原点は「ほんとうは，こんな街にしたいんだ」という，諦めずに理想を追求する姿勢を持ち続けることだと思うので，そういう市民の願いを，人とのつながりと学びで言葉にして見える形にして，しかもその願いを実際の政策に活かしてくれる市を目指すということ。

案3

将来像：「学びを通し 市民による市民のための 社会づくり・地域づくりに貢献する」

説明：将来像について，「学びを通して 社会に参画する」という要素を入れたい。昨今「学び」のイメージは変わっており，一方的に知識を取得するような「個人的な学習」のイメージは，もはや小中学校でも通用しなくなってお

り、繋がりながら意見を交わす創発的な活動が求められている。また、社会教育の本質的な意義として、学ぶための仕組みや運営を市民自身で行うことで醸成される民主的活動、つまり、市民による市民のための社会づくり・地域づくりは、まさに今必要な活動だと思う。

【事務局案】

将来像：ともに学び ともに創る 社会教育が彩るまち 調布

【議論内容】

- ・ 現行の将来像を維持継承するというのが一つの方法
- ・ 笑顔あふれるは、前の基本構想で使われていたものである。あえて今回も使う必要はないのでは。
- ・ 「社会教育」ではなく、「社会」を目標にするべきでは。社会教育を目標にするのは違和感がある。
- ・ 「学び」は残したい。
- ・ 「学びが広がり」という表現がすごく良いと思う。

(2) 調布市社会教育計画素案の案

- ・ 一概に障害の有無について個人の属性を述べるのは現代的でないのでは。
- ・ 障害のある人を別枠にするような書き方は良くないと思う。障害という言葉は無くさず、説明文を付けるなどしたらどうか。
- ・ 講座実施の際、手話通訳だけでなく、外国人向けの通訳をつけるなど工夫をしてはどうか。
- ・ 外国籍市民と国籍で分けるのではなく、母語が日本語でない人としてほしい。
- ・ インターネットを活用した、ハイブリット型の学習の導入等の実施を検討すべき。

6 資料

- 資料1 調布市の社会教育が目指す将来像
- 資料2 調布市基本構想素案
- 資料3 社会教育計画素案の案
- 資料4 調布市教育プラン策定検討委員会 第3回 で出た意見